

いがとこわか通信 vol.6

～三重とこわか国体をもっと知ろう～

今回は中学生の時、創部したばかりのハンドボール部に入部し、その後、高校・大学でも競技を続けられ、現在は、県立上野高等学校ハンドボール部で指導されている竹田誠さんに話を聞きました。

Q. ハンドボールの魅力を教えてください。

(竹田) 何と言っても攻守にスピード感があることです。動きが早い試合展開で、攻撃も守備も積極的に行われ、選手同士が接触しながら攻守に動き回る姿は迫力があり、興奮



するところだと思います。また、1試合の中で入る点数が多いのも見ていて楽しいところです。

Q. 市民の皆さんへメッセージをお願いします。

(竹田) 三重県少年女子代表は2018年の福井国体は優勝、昨年の茨城国体は4位となり、選手の強化が着実に進んでいます。とこわか国体をきっかけに、皆さんにハンドボールの魅力を知っていただき、ハンドボールを始めたいと思う子どもたちが増えることを期待しています。

ぜひ一緒にとこわか国体を盛り上げていきましょう。

伊賀の歴史余話

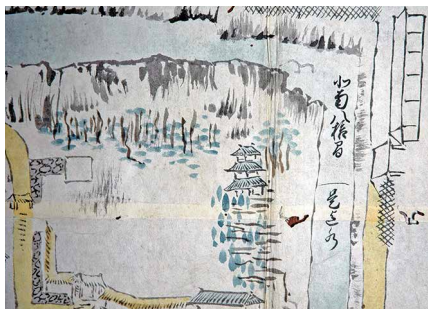
9

筒井天守

江戸時代に描かれた「上野城下町絵図」を見ると、上野城本丸の東北の隅に三層の建物が確認できます。江戸時代の絵図でも、初期の絵図にのみ登場するこの建物は、上野城に造られた最初の天守とされています。

天正13(1585)年に伊賀国へ移封となった筒井定次は、織田信長による伊賀攻めで焼け落ちた平楽寺・薬師寺跡を中心に城郭の建設に着手します。

江戸時代の地誌『伊水温故』によると、筒井氏が建設した城郭は、文禄年間(1592～96)には完成していたようです。城郭には、防衛のための曲輪が嚴重に設けられ、「三層ノ高樓」があったと記されていますので、城下町絵図の描写とも一致します。



▲「上野城下町絵図」(菊山当年男氏旧蔵)に描かれた筒井天守



▲筒井天守跡の碑

慶長13(1608)年、筒井氏に替わって藤堂高虎が伊賀へと入国すると、上野城には大幅な改修が加えられます。本丸が西側へと拡張され、その部分に新たな五層の天守建設が計画されます。

残念ながら、この五層の天守は、完成間近の慶長17(1612)年、大風雨によって倒壊することになります。この建設中のわずかな時間、上野城には二つの天守が並び立つ景色が広がっていたことになります。残された筒井氏の天守は、寛永10(1633)年の大風雨によって倒壊したとされ、その後の絵図からは姿を消します。

これ以降、江戸時代を通して上野城に天守が建設されることはなく、再び上野城に天守がよみがえるのは、昭和10(1935)年の復興天守(伊賀文化産業城)完成を待たなければなりませんでした。

文化財課

☎ 52・4380 FAX 52・4381